



October 2024

Newsletter

第 35 号

理工学系技術部広報誌

令和 6 年 10 月 7 日発行

統括技術長 就任挨拶 ー組織の現状と今後についてー

令和 6 年 4 月 1 日付けで理工学系技術部統括技術長を拝命しました池田正志です。土木系技術職員として 40 年本学に勤めてまいりました。組織が大きく変わろうとしている中での大役に責任の重さをひしひしと感じております。

現在の組織の理工学系技術部では、各技術職員の持つ知見と技術力を活かして、理工学部の教職員ならびに学生への教育研究支援を行っており、教育と研究の質の向上に日々努めております。

主な業務内容としては、各学科における実験や実習での教育支援の他に、安全衛生、薬品管理、作業環境測定、廃液集荷、学生向け安全講習等、大学の環境整備と安全を支えています。また、機器分析センター機器の保守管理や技術指導、RI 施設の運営管理、マシンショップ・プリントショップの運営等、設備や施設の管理・運営面でも大学を支えています。

他にも、技術職員の技術と知見を生かして地域貢献イベントを開催しており、地域社会への貢献活動も行っております。

また、技術職員は技術力向上のためにスキルアップ研修や学外の講習会、研究会等にも積極的に参加して日々研鑽に励んでおり、その成果については学内外の報告会等で発表しております。その中には技術部主催の「技術部発表会」もあり、今年度も 3 月頃に開催する予定です。教職員の皆様には、技術部組織と技術職員について知って

いただく良い機会ですので、是非ご参加いただければ幸いです。

現在、本学では技術職員組織の全学化の構想が進められており、近い将来には技術職員が複数のキャンパスにおいてフレキシブルに業務を行うことになり、高い専門性をもった技術職員が最大限活躍できる体制になって行くものと思われます。既に、一部の化学系技術職員は、今年 4 月の法令改正で各事業場における化学物質に関する管理体制が強化されたことに対応するため、全学的な支援業務を行うことにより、活躍しております。

これから先の組織も見据えて、技術職員一人一人が本学の教育・研究活動の支援およびその環境整備に関する個々の専門知識・技術の追究を行うとともに、他分野との技術連携等を図って行けるような人材になれるよう、努力して行かねばならないと考えております。

今後は、技術部組織をさらに発展させて、皆様にご満足いただけるよう、より質の高い教育・研究支援が提供できる組織を目指して参りますので、引き続きご支援ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



(文責：統括技術長 池田)

INFORMATION

読者の皆さまにお知らせです。以前より当ニュースで何度かお伝えしておりますが、私たち理工学系技術部は独自のホームページを開設・運営しております。組織の概要や業務内容、技術職員が持つ業務知識や専門性、保有資格など、幅広く周知・公開しております。また、本誌（技術部ニュース）や 1 年の活動記録をまとめた技術部報告集も、過去のものを含め、常時公開しております。その他、技術部主催の講習会やイベントの案内、耐震固定のハウツー動画など、幅広いコンテンツを掲載しております。更新頻度は高くないですが、アクセスしていただければ幸いです。（<https://www.tsk.st.gunma-u.ac.jp>）



化学物質管理が「自律的管理」に変わりました

化学物質を原因とする労働災害やがん等の罹患が後を絶たない現状を踏まえ、＜特化則等による個別具体的規制を中心とする規制＞から、新たに＜自律的な管理を基軸とする規制＞に見直された。本学における対応として、以下の7点を行った。

- ・化学物質管理者の選任
- ・保護具着用管理責任者の選任
- ・化学物質管理規程の制定
- ・学生向け安全教育教材の作成
- ・薬品管理システム（IASO R7）の全学化
- ・リスクアセスメント用化学物質リスク評価システムの全学化
- ・作業環境測定用化学物質使用状況調査システムの全学化

今回リスクアセスメント関係の管理が強化されていることから、化学物質を使用する皆様には、次の2点を是非お願いしたい。

- ・リスク評価システムを用いてリスクアセスメントを行う
- ・化学物質使用状況調査システムに化学物質の使用量を入力

これらは使用者自身が化学物質のリスクやばく露する程度を見積ることができ、リスクの低減やばく露される濃度を最小限度に抑える措置の検討を行うために重要である。また入力いただくことで作業場所の作業環境測定の対象や、特定の化学物質使用者向けの特殊健康診断の対象（使用頻度などを考慮して決定）となり、より現在の使用状況の評価を行うことができる。自律的管理等、化学物質関係で不明点や要望がある場合は下記の厚生労働省のHPをご参照いただくか、メーリングリストまでご連絡いただきたい。（文責：石原）

・厚生労働省 HP

化学物質による労働災害防止のための新たな規制について
～労働安全衛生規制等の一部を改正する省令～

(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000099121_00005.html)

化学物質管理に関する社内安全衛生教育 e ラーニング教材

(https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_26157.html)

- ・リスクアセスメント検討WG：rast@ml.gunma-u.ac.jp

国立大学55工学系学部ホームページ投稿について

（ダイラタンシーボールを作ってみよう！）

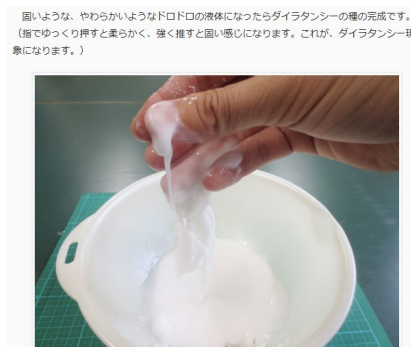
国立大学55工学系学部会議が運営しているホームページ（下記参照）に、『おもしろ科学実験室（工学の不思議な世界）』というページがあります。ページの中でいろいろな大学が工学のふしぎや科学のおもしろさに「触れられる・感じられる」体験学習についてたくさんの記事を紹介しています。その中で定期的に大学広報から依頼があり、技術部としてもいくつか発信しております。今までに、理工学部として「さらさらぶるぶる不思議な物質（2019.10）」「色折り紙の交換ゲーム（2018.1）」「毛髪の表面を解析しよう（2016.8）」「永久ゴマを作ろう（リードスイッチゴマ）（2014.2）」などの投稿があがっています。今回依頼があり、「ダイラタンシーボールを作ってみよう（2024.8）」の原稿を投稿させていただきました。今回の投稿は、体験実験学習オンライン動画『群馬ちびっこ大学』

でも紹介させていただいた内容ですが、片栗粉に水を混ぜたものが不思議な凝固体系となるダイラタンシー現象を用いた体験学習となっております。是非たくさんの方に見ていただきたいと思います。（文責：齋藤）

●国立大学55工学系学部会議ってなに？

全国の各地域を代表する国立大学工学系学部（東京大学などの旧帝国大学と東京工業大学及び筑波大学以外の55学部）の学部長で構成しているものです。地域の文化、産業、人材育成などに重点を置き、相互の連携協力を推進し、大学における工学系の研究教育に係る共通の課題について協議し、工学系の教育・研究活動の改善、向上及び発展に寄与していきます。その中でHPを通じていろいろな情報を発信しています。

- ・国立大学55工学系学部HP (<https://www.mirai-kougaku.jp/>)



国立大学55工学系学部ホームページへ投稿した原稿

原稿 WEB ページのリンク